

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年2月15日(2007.2.15)

【公開番号】特開2002-31688(P2002-31688A)

【公開日】平成14年1月31日(2002.1.31)

【出願番号】特願2001-14051(P2001-14051)

【国際特許分類】

G 0 1 T	3/00	(2006.01)
G 0 1 T	1/18	(2006.01)

【F I】

G 0 1 T	3/00	E
G 0 1 T	3/00	A
G 0 1 T	1/18	E
G 0 1 T	1/18	A

【手続補正書】

【提出日】平成18年12月27日(2006.12.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

図2に示すように、線電流特性は、印加電圧が0Vから40V～60V付近までは線電流値(I)が急激に増加してから緩やかな増加傾向を示している。とくに、印加電圧が0Vから40V付近までのこののような特性は、印加電圧が低いほど 線による電離イオンや電子を陽極および陰極に十分捕捉できないためであると考えられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

また、核分裂物質にはU-235、Pu-239等がある。これらは 線崩壊核種で、半減期が異なり物質量に対する 線放出量が相違する。これらの物質には、不純物元素や同位体元素も含まれ、中性子検出器を製作する核分裂物質のロットが相違すると、核分裂電離箱の真の 線電流値すなわち外挿0V 線電流値(I0)と中性子感度との相関関係も相違する。